

自己評価結果公表シート

2020年度

1、法人理念

三快五感の子育て

【三快】 よく食べ(快食) よく遊び(快遊) よく眠る(快眠)

【五感】 目 目を大きく見開き 遠くも近くもよく見る子
耳 耳を澄まして 大小の音を聞き分ける子
鼻 鼻を利かせ 善悪をするどく感じる子
口 舌を生かし すいも甘いも理解する子
手 手を使い なんでもよく体験する子

2、願う子どもの育ち

自分の気持ちに気づき、仲間と、元気よく遊ぶ子

3、保育方針

子どもの興味は、ひとり一人で、また、その日・その時間によっても違います。本園では、その気持ちを尊重し、子どもが自ら望んだこと、ものに取り組めるよう配慮し、それぞれの子どもの意欲をのびのび育てられるようにしています。そのため、そんな個性豊かな子どもたちに対して、同時に一つのことを教え込もうとはしません。興味を持ったものが違う子どもひとり一人へ、その子にあわせた指導・支援をすることを心がけています。それによって子ども自身が自分の気持ちに気づき、自分を大切にできるようになります。さらに自分と同じや違う気持ちを持つ仲間を認められるようになり、その仲間と共に遊ぶことが増えます。これらを続けることで「子どもの心」が育ちます。「力の育ち」も必要ですが、まず心の育ちが大切。「心」が育った上に「力」が積み重なっていくのが、子どもの育ちであると言えます。

よく遊んだ(快遊)子は空腹感をしっかりと感じる事ができ、よく食べ(快食)ます。そして十分満腹となった子はよく眠り(快眠)ます。人として成長する基本、動く・食べる・寝ることを自ら主体的に行えるようになること、それが本園の教育の基本です。

4、「子どもの育ち」のために

- 子どもが何に心を動かし、何を表そうとしているかを知り、表現する喜びを十分に味わわせるようにする。
- 遊びや自然体験を通して、子どもが感動する場を大切にしていける。また、保育者も子どもと共に夢中になって遊びに取り組むことで、遊びを充実させていく。
- みんなで遊ぶ場を設け、共に遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする場を生かしていく。
- 子どもの興味関心を把握し、季節や実態および狙いにあった環境を構成しながら、その場に応じた援助をする。
- 遊びの中で少しでもできるようになったことを褒め、認めていくことで意欲を持たせていく。
- 年齢に応じた基本的生活習慣の実態を把握し、子どもが無理なく身に付けることができるような環境を工夫し、援助していく。

5、評価項目の達成状況

評価項目	評価項目詳細	職員の自己評価ポイント平均(3点満点)
I 園の基本姿勢について	教育・保育理念や目標の理解 認定こども園としての社会的責任の理解 子育て支援業務についての理解 発達の重要性を理解 職員として心構え 等	2.40
II 認定こども園教育・保育要領	第1章 総則	2.33
	第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項	2.44
	第3章 指導計画作成にあたって配慮すべき事項	2.39
III 園独自の取り組みについて	保育方針の把握 学園化構想に対する理解 内部・外部研修への意欲を持った積極的な参加 市・地域の事業へ園が積極的に参加していることの理解 等	2.55

保育教諭自己チェック評価表

個人評価	視点		
	1、教育課程や指導計画等に設定した「目標」「ねらい」は達成できたか。また、前年の反省評価は生かされたか。 2、日々の教育・保育に必要な環境構成及び設定は適切だったか。 3、園児の状況に応じて柔軟な教育・保育ができたか。また、自身の教育・保育技術の向上を必要とした部分は。 4、保護者との連携は十分に取られていたか。 5、社会人として、また、教育・保育の専門家として資質向上に努め、成果を上げることができたか。等		
	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
	・メンターの役目として、1週間の反省を書面にて書いてもらうことで、本人の記録だけではなく自分の保育を見直すきっかけにもなった ・担任とフリーでは役割が異なるので、それぞれ違う大変さを感じた。クラスや集団活動に入れない子、うまくいかないことがあった子と関わるが多かったので、個々の特徴を理解し接することを心がけた。子どもの思いを受け止めて一緒に乗り越えられるようにした ・降園時は担任からの引き継ぎを伝えたり、保護者からの質問に答えたり、ていねいな対応を心がけた。日々の活動の様子や何気ない子どもの姿も簡潔に伝えるようにした ・毎日体操をできる日は本を参考に行うことで、内容の組み立て方がわかってきた。少し余裕も出てきて、どこを意識するかやどこを使っているかなどを、声をかけながら行うことができるようになった ・子どもたちの意欲や興味関心に合わせた活動を積極的に取り入れるよう心がけた。保育者がすべて考えて前に立つ保育ではなく、子どもと同じ目線にたって一緒に活動を楽しんでいく雰囲気を作り上げるよう心がけた ・研修に積極的に参加して自分自身の視野を広げ、専門性を高められるよう努力した。リモートでの研修受ける際、資料に目を通して予習しておくことで内容の理解が深まるようにした ・園内研修で、わらべうたや環境などを学んだあとの子どもたちの様子や変化、うれしかったことなどを保護者に向けて発信することにより、自分の保育や思いを振り返るとてもいい機会になった ・日々の保育の中でやってみたいことや、もっとこうしてみたらいいかもしれないと言うことなど、自分自身で考え、それを保育の中に取り入れてみることでできた ・少し難しいことでも挑戦できることは見守り、難しいときは子ども自身ができるようになるような援助をして、子どもの力を伸ばしていくことができた ・保護者から食事のことや遊びのことなど子育ての悩みをされた際、保育者の立場からはもちろん、自分の子育ての経験もふまえて保護者の気持ちに寄り添いながらアドバイスし、連携をとれるようにした ・子どもと関わる中でうまくいかなかったときに、上司に相談した際に「保育に正解はないから、先生らしく先生のやり方でやればいいんだよ」と言ってもらえたことで、自分の保育を見直すきっかけになった ・保護者との育児日記のやりとりを含め、関係者がより密になるので、毎日ていねいに記入したり、送迎時にはその日のエピソードを伝えたりし、子どもの成長とともに喜び合う時間を持つようにした ・ほぼゼロからスタートしたわらべうたであったが、研修で覚えた歌を予習するなどし、子どもたちと楽しめる時間を増やすことができた	・個別での対応が必要な子が複数いたり活動が始まっていたりして、子どものペースに合わせてじっくり関われないときがあった ・自分自身の体調面、精神面の管理が十分にできていなかった ・保護者とやりとりをする中で、子どもの成長や様子などを適切な言葉でわかりやすく伝える力が未熟だと感じた。家庭とのやりとりで重要な育児日記を保護者がどんな思いで目を通してくれているか、書いたことが伝わっているかなどの手応えをもっと感じられるようにしていきたい ・子どもに遊びを提供しすぎてしまったように思う。遊べなくなって走り出したりする前に「落ち着いて遊べるようにしなくちゃいけない」と思い、提供してしまったなと感じた。もっと遊びの中での発達を見て、その子にあった遊びを考えていければよかった ・おたより作成で同じ言葉を何度も使ってしまう、バリエーションが少ないと思ったので、言語能力を上げ、言葉のレパートリーを増やさなくてはいいなと思った ・前年に比べおたよりなどで「言語化する」と言うことを意識したものの、自分の語彙の乏しさを感じた。より適切でわかりやすい表現で伝えられるといいと思った ・帰りの迎えの時間が保護者と話ができるタイミングだが、もう少し深く子どもの様子を伝えられたらよかったかなと思う。迎えが重なるのでなかなか時間をとることが難しいが、「今日は〇〇の保護者」と計画的に話ができれば、もっと子どもの成長とともに喜んだり、課題に対して双方で向きあうことができたかもしれない ・養護への配慮(運動機能が高まるようにする)点が不十分だったと感じるため、戸外遊びのレパートリーやさまざまな体の動きができる遊びを増やしていくことが課題 ・アンケートの中の「なんでも話せる雰囲気」にC評価が付いているものがあつたが、保護者一人一人によって受け止め方がさまざまな分、もっと細かい配慮が必要だったと感じた ・一つ一つのおもちゃの名称や特長、子どもの発達にどのような成長をもたらすかなどの知識が不十分だった ・支援が必要な子に対して適切な援助ができなかった。担任だけで気持ち切り替えていくことが難しいので、他の保育者に引き渡して切り替えられるような場面も必要だった ・子どもの日々の記録を書く際、表面だけを見て書いていることが多いと感じた。手先やバランスの取り方など、個々の成長に着目し具体的に示していく ・保護者に必要なことは伝え、保育の思いや出来事を伝えていったが、思うように伝わらず、後で問い合わせがあることが多かった	・当たり前置いてあったおもちゃも少しバリエーションを変えてみたり、場所を変えたり広げるだけで、子どもの遊びがさらに発展してくれるので、これが「正解」と思わずいろいろ試し、柔軟性を持ちながら保育に努めたい ・保護者との信頼関係が築けるよう、ていねいな対応や子どもの姿を共有することを今まで以上に意識していく ・コロナ禍での変化も大きいので、柔軟に対応できるようにしたい ・専門職としての自覚を持ち、保護者にどうしてこのような保育や声かけをしているのか、このおもちゃや運動によってどのようなことが育つのかなどのことを、クラスだよりや口頭でしっかり伝えていきたい。園から出すおたよりが子育ての手助けやヒント、時には心の支えとなるような、よりよいものとしていきたい ・子どもたちがいまどんな物事に興味があるのか、どんな物事に興味があり、興味を持つのかを、子どもの遊びや会話などを見たり聞いたりしてアンテナを広げながら、子どもたちが楽しく安全に過ごしていけるような素材や題材を取り入れていきたい ・できないと思わず、いろいろなことに挑戦し、子どもたちの姿に合わせた、毎年違った保育を自分自身が楽しんでいきたい ・保護者対応では、ノートを活用しながらも直接話をしていく場も適度に作っていくようにしたい ・課業の難しさを感じつつ、保育者が思いを持って働きかけることの大切さもわかってきた。課業を課業の時間だけで終わりにせず、日常の保育の中でも、考えたことを実践する機会を意識していきたい ・いま保護者に一番伝えたいことは何なのかを、わかりやすい言葉で伝え、自分たちが行っている保育の良さを伝えていきたい ・自分も担任としての責任を持ち、子どもたちの様子から改善していきたいところなどの意見を積極的に言えるように、保育について知識をつけ、自分の思いや意思をはっきり伝えていけるようにしていきたい ・自分の体の不調について言葉で伝えるのが難しい月齢の子もいるので、体調の変化に気づいていけるよう、小児の病気やケガについても改めて勉強したいと感じた ・園全体に視野を向け、職員や子どもたち、保護者の様子、活動内容、それに対して大切にしていること、していきたいことなど、意識してみていきたい。また、職員から上がってくる声も大切にしたい ・制作などの声かけで自分の中で何を伝えていきたいのか明確化していく。そのために書類などを作成して、自分なりにわかりやすくまとめておく

	視点		
	1、保育教諭等の間で必要な連携がとれていたか。 2、保育教諭等の間で必要な情報を共有できていたか。 3、主幹保育教諭等の上司と十分な話し合いの上で計画が作成できていたか。 4、クラスとして必要な記録を残すことができたか。 5、部屋の環境構成(物の配置等を含め)適切だったか。		
クラス運営評価	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
	・園外保育に行くだけで終わるのではなく、そこから制作や図鑑で調べ名前を知るなど、つなげていくことができた ・コロナでの制限の中でも子どもたちはのびのびと過ごせるように努めた ・課業の計画(わらべうた・制作・環境認識)は、常に学年の保育者と話し合いの時間を持った。発達状況や各クラスの子どもの様子を伝え合い、やり方や活動の意図など、共通理解をしていくようにした。特に今年はコロナもあり、話し合う時間を十分に持てたのでじっくりと行えた。また、必要な教材なども作って準備できた ・話し合ったことをすぐに実行に移せて取り組むことができた ・保護者からの伝達、保護者への連絡事項の連携を、専用の用紙を使いながら共有することができた ・発達課題がある子への対応で悩むことが多かったが、その都度上司へ相談し、安心して対応にあたることができた。「いつでも頼っていいよ」というスタンスでいつでも構えているのは心強く、励まされた部分も多かった ・保育者間で一人一人の発達の状況を共有することができた。また、その際に改善策を話し合いながら、その子がより生活しやすくなるよう対応を考えることができた ・わからないことはすぐに質問して、あやふやのままにならないよう、その都度相談するようにした ・担任が休みの際、代わりにクラスに入るときは、前日に子どもの様子やクラスの一日の流れや子どもの対応、注意すべきことなど、必要な情報を事前に共有してもらったことで、クラスに入った際、円滑に1日を過ごすことができたと感じる ・クラスの職員で話し合いの場を作り、改善点はその都度情報を共有し、解決策を見出したり、課題にしたりと連携がとれていた。また、話し合いを記録として残している ・クラスの環境には展示の仕方に力を入れ行ってみた。展示の仕方を工夫して大人がきれい、ステキと思える環境は子どもたちにも伝わると思い、家庭にも呼びかけて自然物を集め、暖かい雰囲気的环境を作った。子どもたちの反応がよく、掲示物を見て話をしている子が多かったように思う	・自分の考え、思いを言葉にして伝えることの大切さを感じる ・おもちゃ、絵本など破損したものや数の確認を徹底していきたい ・さまざまな保育者がいるので、連携をとって保育する難しさを感じるがあった ・現場の状況をその場にいない保育者に伝えること、共有することが難しいときがあった。こちらの伝え方、話し合いの持ち方など、もっと工夫する必要があったと思う ・気さくに自分の思いを話し、意見を言い合えるような雰囲気作りを心がけたい ・生活習慣がなかなか身につけていない子が多く、スプーンの持ち方や姿勢、服をたたむなど、もっとといねいに見てあげればよかった。また保護者にも今の状況を伝え、進め方をその都度伝えていけばよかった ・困ってしまっても、なかなか相談することができずにいたり、目の前のことに集中してしまうことが多く、全体を見ることができないときがあった ・計画時は、十分話し合いの時間を持ててきたが、実践後の意見交換や反省もしていけると、次に繋がっていくと感じた。実践してみて気づくことも多いので、特に初めて担任を持つ保育者とは、実践後の話し合いをもっとじっくり持てるようになった ・保護者との良好な関係作りをしているつもりであっても、保護者がこちらを信頼し、困ったときや悩みがあるときなどは特に気軽に話をしたいと思ってもらえるような信頼関係を築くようにしたい ・環境構成に悩んだ一年だった。子どもたちの遊びを広げるにはどうしたらいいのか、どうすれば余裕を持ったスペースで遊びに集中することができるのか。思いつく限りの準備をしたつもりだが、「子どもに任せる」部分と「職員が提供する部分」のバランスをもっと勉強していきたい ・子どもと一緒に遊びを楽しむ中で、どのタイミングでその遊びから抜けければいいのかかわらず、いつまでも遊び込んでしまうことがあった。子どもと一緒に遊ぶときは、ある程度遊びが展開して保育者がいなくても子どもだけで遊べそうなタイミングを見極めたい ・清掃や保育準備など補助員さん任せのことが多いので、補助員さんが休みの日にいざ動くこうとすると段取りがわからないときがあった	・クラスだけではなく、第三者からのアドバイスにより、いろいろな方向から保育を見直すことができる。たくさんの職員の力によって、保育の改善や資質の向上に努めていきたい ・わらべうたは、自分だけで覚えたり確認するだけでなく、保育者同士で教えあったり、覚えあったりして、より身近に親しみ、保育に生かしていきたい ・家庭からの引き継ぎや日中の様子を保育者間で共有する。また、各おたよりにも目を通し必要な情報を把握しておく ・次年度の職員に今年度の引き継ぎをしっかりと行う。次年度も使えそうな書類なども引き継ぐ。必要なときには事務仕事をする時間を作るような、職員に協力を求める ・今年度はいろいろな学年やクラスに入って保育することが多くあり、いろいろな保育者による保育の多様性や子どもの姿を客観的に見ることで学びが多かった。どの学年、クラスも話し合いの機会をしっかりと持ち、日々の保育に活かしていると感じたので、次年度以降、自分自身も積極的にに関わり、意見を発信していくようにする ・発達の段階に差があったり、支援を必要とする子がいるので、環境の作り方を学ぶために、自分自身がさまざまなおもちゃや環境、遊びに触れて知っていくとともに、保育者同士の話し合いの中で複数の解決策をあげ、知識を広げていこうにしたい ・さまざまな難易度のおもちゃを用意できるように子どもたちの発達の変化に気づき、その都度、環境を変えていけるように、おもちゃや環境についての知識を増やしていきたい ・どのように環境構成をしていけばいいのか学んだことを、次年度は子どもの様子を見ながら意見を出し、提案できるようにしていきたい ・月1回の乳児主担会を予定していたが行えない月もあり、話し合いたい時期がずれてしまうことがあったので、主担会に限らずもっと気軽に話し合える時間を積極的に作っていけたらと思う ・学年で大きな制作を年間で何回か行う場合には、各制作ごとに主になる保育者を変えたと、主になるクラスの子が変わったり、それぞれの先生の個性が作品ごとに表れたりしておもしろいものになると思うので、そういった提案をしていきたい
園全体評価	視点		
	1、園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われたか。 2、職員の研修内容とその成果は現場に反映されたか。 3、教育・保育内容の公表に努力をしたか。また、その方法は適切だったか。 4、小学校や地域との関係機関との連携に向けて必要な努力をすることができたか。 5、園全体としての今年度の教育・保育の目標やねらいは達成されたか。等		
	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
	・園独自の研修が少しずつ成果を上げてきていると思う。そのため他の研修に出たときも、自分の考えを持って参加しているため、より良い保育の方法を考えていく力が付いてきている ・当たり前としてきた行事をコロナ禍という状況下で模索することで、新たな発見があり、子どもたちにとっても無理なく普段の保育の延長という形で行うことができた ・コロナ禍で何もできないのではなく、何ができるか、どんな方法でやれるのかを話し合い、進めることができた	・〇〇したい、〇〇と相談しようと思っても次の一步が出にくかったように感じる。自分の思いを言葉にし、伝えていく必要がある ・具体的に幼児期に身につけたい力を身につけるための保育が少なかった ・保育中は職員同士の伝達などは短く必要なものだけにして、子どもたちと遊び、子どもの成長を意識することををもっと徹底できればよかった	・園の方針を理解した上で、各保育者の個性が出てくる保育ができていくとよい ・より具体的に、幼児期に身につけたい力を身につけられるような保育を考えていきたい ・子ども一人一人の遊びを見て、個々の成長を把握し、一人一人に合った遊びを提供していく